交流だより

山梨県立あけぼの支援学校
令和５年９月１５日発行
令和５年度　第１号

交流及び共同学習について

校 長　相山 洋幸

交流及び共同学習は、障害の有無にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し合える共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育システム構築をめざして推進されております。障害のある子供と障害のない子供、あるいは地域の方々と触れ合い、共に活動する交流等活動は、障害の有無にかかわらず、それぞれの経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会となるなど、大きな意義を有するものです。また、学校卒業後においても、障害のある子供にとっては、様々な人々と共に助け合って生きていく力となり、積極的な社会参加につながるとともに、障害のない子供にとっては、障害のある人に自然に言葉をかけて手助けをしたり、積極的に支援を行ったりする行動や、人々の多様な在り方を理解し、障害のある人と共に支え合う意識の醸成につながると考えられます。本校においても、交流校や地域の関係者のみなさまの御理解と御協力の中、充実した取り組みを積み上げてきているところです。

昨年度及び今年度のこれまでの交流及び共同学習においては、新型コロナウイルス感染症対策のため、直接的な交流はまだ難しく、オンラインによる取り組みを継続してきました。様々な制限はありましたが、その制限があったからこそお互いをよりよく知り合うためのアイデアや心持ちが生まれてきたのではないかと考えます。とは言え、直接ふれあいながら共に経験できる活動が理想的であることに変わりはありません。場面ごとにできる最大限の活動について、今後も検討していきたいと思っております。

子供たちの幅広い経験と豊かな人間形成を図るため、引き続き、皆様方の御理解と御協力がいただけますよう、お願い申し上げます。

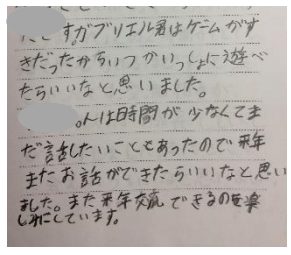
学校間交流

○増穂南小学校との交流

【オンライン交流の様子】

７月４日（火）に増穂南小学校の全校児童と本校小学部が、オンライン交流を行いました。本校の学習グループに増穂南小の児童が分かれて入る形で作ったグループごとに、交流を行いました。Ⅰ部は増穂南小の発表。自己紹介を行ってから、絵本の読み聞かせや質問コーナー、楽器演奏、歌唱等いろいろな活動がありました。事前に渡した本校児童の自己紹介カードを参考に、児童に合わせたものを増穂南小の児童が考えてくれました。Ⅱ部は本校児童の発表。実際の授業を行うグループや質問コーナーを設けるグループなど、工夫した内容になりました。画面を通してでしたが、お互いに言葉のやり取りも積極的にしていました。

増穂南小との交流は、両校児童が 1 年生から継続して行っています。コロナ禍以前は増穂南小の児童が本校を直接訪問し、本校の教室で交流していました。直接訪問の交流を体験している児童は、「早くあけぼの支援学校に行けるようになるといいなあ。」と言っていました。


すがブリエル君はゲームがすきだったからいっしょに遊べたらいいなと思いました。
ぶんは時間が少なくてまだ話したいことがあったので来年またお話ができたらいいなと思いました。また来年交流できるのを楽しみにしています。
【増穂南小の児童の感想】

○韮崎西中学校との交流

【韮崎西中学校の生徒と記念撮影】

７月４日（火）に韮崎西中学校の福祉ボランティア委員会１～３年生の生徒達と本校中学部がオンラインによる交流会を行いました。それぞれの教室でグループごとに行いました。自己紹介の後、グループごとに「トークタイム・心理ゲーム」「ジェスチャークイズ」「好きなこと・得意なこと紹介・発表」「イントロクイズ」を行いました。活発に発表したり質問に答えたりしあうことで、

画面越しではあるものの、互いの存在を近くに感じながら、活動に取り組むことができました。活動の中で、生徒達はとても良い表情をして画面を見つめたり、声や音楽に聴き入ったりして、楽しい時間を共有することができました。

○高等部三校間交流

【プロフィール書いています】

日本航空高等学校と甲府商業高等学校と本校高等部の三校間交流では、毎年恒例のプロフィール表とビデオレターの作成を行いました。趣味やチャームポイント等、自分をアピールできることを書きました。各グループの紹介ビデオでは、それぞれのグループの個性が相手に伝わる内容で、相手校からも面白かったと好評でした。相手校から届いたビデオレターも、ワクワクしながら観ました。今後は、第２回の交流会が１１月に予定されています。有意義な交流になるように、みんなで内容等を話し合っていきたいと思います。

○韮崎工業高校との交流

【○×クイズで大盛り上がり！】

本校では、韮崎工業高等学校木材加工班の方々に教材作製をお願いすることを通して行う交流を例年実施しています。今年度の第１回交流会は６月１４日（水）にオンラインで両校をつないで実施しました。両校の参加児童生徒を３つのグループに分けて、それぞれのグループごとの自己紹介や質問タイムで盛り上がりました。韮崎工業高等学校生徒からの趣向を凝らした自己紹介や、その自己紹介の内容からの質問が出された質問コーナーでは、それらの様子が映し出された画面を、本校の児童生徒は興味深そうに見つめていました。本校からは、これまでにいただいた教材の紹介や実際にそれらを日々の学習活動に活用している様子を伝えるなどして、感謝の気持ちを伝えました。終始楽しい雰囲気の中、オンラインでの交流でも両校の児童生徒がお互いの多様性を感じ合い、認め合う良い機会となりました。１月の教材受け入れ式が今から楽しみです。

いきいき教育地域人材活用推進事業

幅広い経験や優れた知識・技術を持つ地域在住の専門家・社会人を学校に招き、授業の中で活用するいきいき教育地域人材活用事業の一環として、２０年来本校での活動にご協力いただいている「ピッピの会」主催者の宮崎さな子様を６月１３日にお招きし、絵本の読み聞かせやパネルシアターの鑑賞会を実施しました。

「もこもこもこ」の絵本の読み聞かせでは、リズミカルで抑揚豊かな調子で繰り広げられるお話を、児童生徒は興味深そうに見つめており、表情や身体の動き、発声で豊かに表現しながら聴き入っていました。パネルシアター「しゃぼんだま」では、パネルを表現豊かに動かす様子を興味深そうに見つめながら、お話に聴き入る児童生徒の姿が多く見られました。最後に「おおきなかぶ」のお話を聴きました。おじいさんとおばあさん、動物たちと一緒に「うんとこしょ　どっこいしょ」と大きなかぶを一生懸命に引っ張る様子を楽しんでいました。

今回は感染症対策として、体育館で実施することで距離を取り、対面形式で行いました。また、体育館に移動することが難しい児童生徒については、リモートで視聴する形式をとって行いました。それぞれの児童生徒が歌や絵本の世界に引き込まれる素敵な時間を過ごすことができました。

※前期の学校間交流は全てオンラインでの交流会を実施しましたが、直接ふれあえなくてもプロフィール表の交換やビデオ通話によるやり取りを通して、お互いのことを知り、思いや考えを伝え合う中で、認め合う時間になったと思います。いきいき教育地域人材活用推進事業では、「ピッピの会」による絵本の読み聞かせなどを、体育館での感染症対策を施す中で鑑賞することを実施しましたが、直接鑑賞できる大切さを実感することができました。大切にしている楽しみな時間だからこそ、お互いが安心して交流できる時間の作り方をこれからも検討していきたいと思います。